

✕
i 33-2

第

壹

號



官許

明治十年回月廿七日刊行

毎月六回發售

某物学部

東京不忍池畔 櫻南社

富士川文庫

897

F 1
i-104

4冊

490.5

Ih-2

1

No. 2084

1913-2

緒言

我國近世医学一變を漢ヲ去テ洋ニ就ク是病
 テカ西洋諸家ノ新著陸續舶輪スルモノ牧擧スル
 言違テラス且遠ク海外ノ教師ヲ延キ其學術ヲ親
 研究ス豈ニ開明ノ鴻澤ナラスヤ然ト虽モ其地僻遠
 或ハ都下ニアレドモ事業多端ノモノ又貧困ニシテ學費
 ニ乏キ者比皆遺憾ナキ一能ス困テ今西洋現ニ諸家
 ノ説ヲ纂輯譯述シ最モ簡明切當ノモノヲ采リ之

二加ルニ皇國支那ノ説ヲ以テ凡實學ニ裨益アルモノ擧
 テ遺スナク然ラハ則チ僻邑大都學ニ志ス者一タヒ此書
 ヲ鑄カハ殆ド遺憾ナカルヘシ先ツ藥劑學ヨリ始メ訓
 點シ加ヘ發兌シテ世ニ問フ諸學科如キ追次印刷
 スヘシ此書醫ニ医家ニ便ナルノニ非ス藥舖ヲ業
 トスルモノモ一讀シテ有益尠ナカラズ若シ校正錯謬
 アラハ讀者請フコレヲ訂正セシメヨシニ望ムル也
 櫻南社長識

醫範新說 藥劑學部

麻酔劑總義

麻酔下題スルハ藥劑ノ性

質ヲ以テ云フ諭ハ醉人藥

繩縛ニ逢フ力如ク釋ニ從

テ麻痺ヲ覺ヤ久クシテ

自ラ巴ム麻ハ猶ヲ痺ノ如

ム痛癢ヲ知ラサルト木ノ

如之醉ハ酒ニエフカ如ク
性理途ニ錯ニ至ルヲ云フ
此劑ヲ以テ諸劑ノ首ニ冠
スル者ハ使用ノ功力嘗テ
諸劑ニ絶卓スル功要ノ藥
ナリ沈痾ヲ起シ神智ヲ益
シ死ヲ蘇シ生ヲ壽スル機
變ノ妙ニ至テハ奧衍弘深

ニシテ曲サニ究メ殫シ易
カラス名家百民ノ書ニ燦
阿陳セサルニ非ト雖モ義
蘊ニシテ殊ニ詮釋モ亦夕
少ク萬卷ヲ開ト雖モ皆茫
如夕リ故ニ固陋ヲ掃ラス
爰ニ諸家ノ說ヲ採リ經量
ヲ正シ症ヲ詮シ方ヲ釋シ

此篇ヲ述フ筈筈ニ附テ
緩急ニ備ヘハ施齋ノ道モ
亦妙カラスト云フ

蘇圃云ク救急ニ金針用テ
刺す所ハ心ノ尖ニ在リ
心ノ尖ハ心ノ上ニ在リ
心ノ上ハ心ノ中ニ在リ
心ノ中ハ心ノ下ニ在リ
心ノ下ハ心ノ外ニ在リ
心ノ外ハ心ノ内ニ在リ
心ノ内ハ心ノ外ニ在リ
心ノ外ハ心ノ内ニ在リ

○ 麻酔劑

阿芙蓉

バヲヒウム ラウダナム コニウム
バ、ウルソムニヘルム

阿芙蓉ニハ罌粟實ノ未タ熟

セサル時ニテ夕テ其頭

上ヲ截斷シ痕疵ヲ存シ滲

出スルトコロノ乳汁様ノ

精液ヲ樓メ取收シ罌粟葉

ニ包テ貯ラセバ則チ

ナ 馴帖ニテ後ナ自ラ塊球
取ヲナス者ナリ新鮮ノ者
ハ軟ニシテ剖開スレハ裏
面ニ細少ノ顆粒状或ハ凝
淚様ヲ顯ミ色ハ灰綠ヲナ
ス既ニ乾涸スル者ハ外面
暗黒色ニシテ趨碎スレハ
内面赤褐色ニシテ光輝アリ

○味ニ苦ニシテ一種不快ノ臭
氣アリ酒精或ハ水ニ淹セ
ハ真ノ阿片ノニ溶解シ混
交物ハ溶化セズ用スルニ
○乾涸セル阿片中ニ少ナリ
ト雖モ十分一ノモルニ至
テ必ズ含有セサルナリ
○阿片ハ其品位良好ナル者

○ト雖凡諸種ノ不潔物ヲ混
交ス故ニ手ヲ收製セサレ
ハ越幾斯トナスヘシ然ラ
○サレハ分量差違ヲ生スル
憂アリ薬剤ニ使用スルニ
堪ス
健體作用〔小量〕興奮期長ク
○テ終ニ麻醉ノ効力ヲ顯

ハス則チ服後暫時ニシテ
脈數ニチ緊強身體温煖ヲ
覺フ呼吸氣促ス此間凡チ
中半時ヨリ五十分時ニ至ル
脈候常度ヨリモ減シ體温
減下シ呼吸遲慢身體快朗
ヲ覺フ爰ニ到リテ疼痛苦
惱等委々沈靜始メテ眠ニ

就_レ心_レ安_レ息_レ調_レ和_レ之_レ神魂_レ安_レ
靜_レ大_レ心_レ其_レ常_レ人_レ如_レ之_レ醒_レテ
後_レテ更_レニ餘_レ症_レナ_レク_レ口_レ
咽_レ乾_レ燥_レ之_レ皮_レ膚_レ滋_レ潤_レス_レ蓋_レ
中_レ量_レ之_レ乃至_レ小_レ量_レニ_レ比_レス_レト_レ坐_レ興_レ
奮_レ力_レ較_レ強_レ久_レ脉_レ數_レニ_レ之_レテ_レ強_レ
實_レ身_レ體_レノ_レ温_レ度_レ著_レク_レ促_レ進_レ之_レ
精_レ神_レ興_レ奮_レ之_レテ_レ知_レ覺_レ識_レ能_レノ_レ

力_レモ_レ亦_レ夕_レ活_レ潑_レ下_レナ_レリ_レ平_レ時_レ
以_レ上_レ之_レ過_レ之_レハ_レ脉_レ緩_レニ_レテ_レ遲_レ
神_レ思_レ安_レ定_レ之_レテ_レ睡_レ熟_レス_レ若_レク_レ
ハ_レ其_レ人_レノ_レ稟_レ賦_レニ_レヨ_レリ_レ感_レ動_レ
之_レ易_レキ_レ復_レア_レル_レト_レキ_レハ_レ頭_レ部_レ
ニ_レ充_レ血_レ之_レ顔_レ面_レ及_レヒ_レ結_レ膜_レニ_レ
紅_レ色_レヲ_レ呈_レ之_レ瞳_レ孔_レ縮_レ少_レ之_レ頭_レ
痛_レ沈_レ重_レ或_レハ_レ掉_レ暈_レ之_レ甚_レ之_レキ_レ

トキハ空全身翻々ト之ヲ浮
雲ノ上ニ昇力如ク目ヲ舉
レハ則チ室モ亦夕施轉ニ
テ定ラズ口咽乾燥ニ心煩
吐逆ス一ニ時間ヲ過レハ
身體衰弱ニ動作ニ懶ク神
氣疲倦ニ言語蹇澁ニテ清
ラズ漸次ニ鼾睡ニ沈邊ノ

言笑起居喧ト雖モ更ニ忌
諱セズ體中ニ忍ビ難キ痛
處アルトモ亦夕意致スル
トナシ然レ凡夢魂安寧ナ
ラズ讒語ニ醒テ後チ通身
倦怠惡心便秘等ノ症候除
カススト雖モ一ニ日間ヲ
大過レハ康復ス喜ビ

大量三人乃興奮期甚久短少且

又強烈ニメ速ニ麻醉期ニ

轉ス則チ初メ脈數ニメ強

實神理遂ニ錯亂ニ煩悶譫

語ス甚ニキハ狂状ヲ發ス

此ノ如キニ暫時ニメ直ニ

昏冒ニ人事ヲ省ニ不嘔及

獨言ニ筋惕肉顫顛振搖擲

等ヲ發シ呼吸促迫ニ時々

緩急發作アリ顔面蒼白チ

ア動トモニ脈弱ニメ遲瞳孔

縮少ス

中毒量至三人乃興奮期ノ状ハ前

條天量ノ部ニ説カ如クニ

メ一層メメ強劇子明其時

間短クニ僅ニ一分時

大凡後之麻酔期ニ移リ全身
ノ機關利セズ筋骨弛緩シ
下頰垂下シ顔色憔悴シテ
中額上冷汗ヲ流シ四肢厥冷
脈遲ニメ微弱亂シテ倫ナ
ク瞳孔孔縮少最モ甚ク久
其形ヲ針ヲ以テ刺ス力如
ク尿ノ分泌閉絶シ終ニ衰

脱シテ斃ル
○阿片中毒主症ハ瞳孔縮
少ト尿下入分泌阻絶スル
トヲ以テ確徵トナス
解屍所見ハ腦膜及ヒ腦質ニ
ニ血液上沖充脹ス故ニ全
身ノ血液ハ凝泣性ニシテ
其他ハ常ノ屍状ニ異ナリ

○小量ノ阿片ヲ久服スルハ則チ慣習シテ効チキニ至ル漸ク増量シテ又久服スルハ終ニ慢性中毒トナル其症父ル始メ消化機衰ヘテ飲食進マズ舌上苔ヲ生シ或ハ便秘シ或ハ下利

ニシテ腸胃ニ慢性葛答兒ノ症候ヲ顯シ齒牙黒色齦肉弛緩シ體氣已ニ衰ヘ皮肉寛緩ヲ生シ神志困憊シ尋テ死スルニ至ル

○阿片煙草ヲ吸嗜スルキハ此性中毒ヲ喚起スルキ必然ナリ故ニ慎スニバア

ルハカラスニ動スルハ
医事効用阿片ノ効用ハ上條
○示ス處ノ健體作用ニ基ク
トキハ興奮及ヒ麻醉ナリ
ト雖モ通常麻醉ノ効ヲ主
トシテ用ヒ興奮ノ効ヲ目的
ト爲スニテ特チ黒子蟻肉
二神経系機能旺盛ナル者則

テ疼痛及ヒ不眠ニ至用ス
然レモ熱性殊ニ頭部充血
ニ微候アリ者ニ必ス用ス
此下ナカレモ鎮靜ノ
ハ腦及ヒ知覺神経ノ機能
ニ於テ旺盛ナル者ニ於テ
三胃之ヲ鎮靜スル良効アリ
無クモ雖モ脊髄及ヒ運動神

經系ニ於テハ其効此
 如ク峻ナラズ身疾下
 二熱性病其急性人經過ヲ誤
 リ荏苒日ヲ経テ神経系ヲ
 侵シ日ヲテ系疾敏下ナリ
 疼痛或ハ譫語不眠ノ症ヲ
 ナス者ナリ急性關節痺麻
 痺、腦膜熱、穿開腹膜熱等ニ

五中量ヲ用ヒ鎮静スル効了
 リ殊ニ穿孔腹膜熱ニ於テ
 ハ其疼痛ヲ鎮ルル効ナ
 四ラズ腸ノ蠕動機ヲ鎮静ス
 ルヲ以テ主用スヘキ薬ト
 ス
 三胃飲ルカストトラ（其器復變常ノ有
 無ニ拘ラズ）及ヒ誤テ腐蝕

藜ヲ服ニテ胃腸疾ヲ發ス
三心者ニ用テ心疾父則テ疼
痛ヲ鎮メ蠕動機ヲ靜止シ
下利ヲ止ム心良効アリ
四鉛毒疝腰腹痛及ヒ腸管
ノ急縮疝痛ヲ治ス緊縮舒
暢ス心故ニ瘧後反テ大便
下迫スコレ良候ナリ

五婦人喜斯的里性疼痛或ハ
患心嘔吐ヲ治ス妊娠瘧
性ノ腹痛又臨産陳痛産後
兒枕痛ヲ治ス鎮痛薬ニ用
ルニ内腹スルヲ常套トス
症ニ憑テ瀉腸劑方ハ單行トシテ
幾ノ條見ユヲ
使用スヘク峻速ニ効當ノ
効ヲ奏セルト欲ハ其近部

ニモルヒ子ヲ注入スヘシ
方ハモルヒ子ノ部第
ニ條ヲ参考スヘシ

六) 腦ニ至テ麻醉シ尤末梢神
經ニ効アリ痙攣ヲ去ニス
四) 昔日ハ用ヒテ効アリト
ス近時ハ外ニ對症ノ新薬
アリ故ニ補用衰リ如何ト
スナレハ知覺神經ヲ刺戟ス

ルニ由テ發ル症ナル故ナ
リ癲癇舞蹈病ハ驗ナシ運
動神經ノ疾患ナルカ故也
七) 急性鬱憂病ハ鬱憂病ノ一
種ニシテ身體振戦シ悵鬱
煩憂シテ舒ス漸々振耗ス
子ルニ用ヒテ峻ヲ奏ス
一) 用量ハ一至四入

莫爾比涅ノ鹽
モルヒ子ハ阿片ヨリ收製ス
ル處ノ類塩基アルカク
トナリ水ニ溶解シ難ニ由
テ鹽トナシ用ユ獨ニ
テハ鹽酸モルヒ子用ユル
ヲ主張ス往昔ハ醋酸モ
ルヒ子ヲ明ヒシガ水ニ溶

消シ難キヲ以テ調和ニ便
ナラス又内服ニ供スルト
キハ胃ヲ傷損スル害アリ
貯藏スルトキハ敗化ノ憂
アリ故ニ用ヒス英國ニテ
ハ舊ニ依テ醋酸モルヒ子
ヲ用ユル者多シ
一鹽酸モルヒ子白色ノ結晶

一、物ニメ光輝子ハ十分
水ニ溶化ス温氣ヲ含ム
ハ故ニ溶陶ニ易ニ近時ハ
阿片主專ノ方中ニ鹽酸モ
ルヒ子ヲ代用ス止痛催睡
ノ効ハ阿片ノ上ニ卓越ス
レバ振惕譚忘ノ如キ精神
病又下利ヲ止ムルノ効ニ

至テハ遙ニ劣レリ
二、硫酸モルハ字ハ倍ノ冷
水ニ溶開スルニ速ニ分ル
三、醋酸モルヒ子ハ醋酸分離
用飛散シ易ク且ツ前條ニ述
ルガ如キ憂アリ故ニ医家
投薬ニ便ナラズ
以上鹽硫酸醋三品ハ各含有

二ノ酸類ヲ異ニス下雖氏主
用業効驗ニ至テハ差違ナ
ク
三ノ内服ニハ六分ハ調劑ヲ以
テ純阿庄一ハニ克ツ越ス
二ノ咳嗽ニハ四分ハ一ノ
至ニ十分ハ一ノ一度ノ

量下ス一日三回ヲ與フ
催醉菜ニハ十二分ハ一
ノ至六分ハ一ノ又三分ハ
ノ一ヲ一日一度ノ量トス
半ハニ至ル下キハ一ヲ記
ス一日ニハ一ヲ極量トス
皮下注入ニハ十二分ハ一
ノ至八分ハ一ノ常量ト

ス
注入ハ局處ヲ專治ニ汎濫
ノ作用ハ最モ輕ニ喘息等
ノ痙攣ヲ沈靜セシト欲セ
ハ横膈ノ附着部即チ胸部ニ注入
スヘシ局處ノ痛苦アリテ
眠リ得難シト雖内服ス
ル者ハ胃ヲ傷害スル患アリ

ル者ハ皮下ニ注入ニテ眠
ヲ促スヘシ

ナルセイ子足モ亦夕阿片復
中テ一性分ニシメ催睡ヲ

主ル其効ハ阿片モルヒ子
ニ卓越スコレヲ驗ムルニ

允奮機更ニナク熟寢ニ醒
テ後テ精神清健胸臆快爽

頭	痛	惡	心	等	前	餘	候	類	殘	疾
了	才	以	此	人	如	キ	淳	良	ノ	品
才	其	價	騰	貴	二	了	了	呂		
類	王	夕	夕	了	了	得	難	了		
故	二	尋	常	使	用	ス	レ	能	ハ	
天	不	子	中	也	良	子	爾	若	國	或
人	疑	始	得	終	心	下	雖	凡	肉	服
少	盡	八	良	不	信	新	八	上	疾	類

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、